

スローテンポ通信

第 35 号

2020年7月3日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町 3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』
<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

☆ スローテンポ書店では『**新型コロナウイルスを考えるヒント 10冊+1**』(案内パンフ)を用意しています。その中から、

子どもと一緒に読める本 2冊
を紹介します。

○『エチオピアのごはん』

絵本 世界の食事 22

文:銀城康子 絵:加藤タカ

農文協 2020年 2500円+税

☆☆☆☆

エチオピアは、西洋の植民地にされなかつたから、伝統が壊されることなく伝えられました。生活の中で、体によいものはよいとして伝えられます。だから、伝統食は体によいものばかりです。

エチオピアの日常光景は、食べることは生きることであり、食事と健康が切り離せないことを改めて感じさせてくれます。

○ 菌の絵本『にゅうさん菌』

佐々木泰子 監修 ヒロミチイト 絵

農文協 2018 ¥2500+税

☆☆☆☆

乳酸菌が出す乳酸は、細菌の細胞膜を通過するので、胃酸にも耐えるピロリ菌さえもやっつけます。

日本の伝統的な味噌、醤油、漬物を始め、チーズ、ヨーグルト、チョコレートなども、乳酸菌がつくる発酵食品です。乳酸菌をとることで、腸内細菌を整え、免疫力を高めます。こんな時期だからこそ、伝統的発酵食品とお友だちになって、ウイルスにそなえましょう。

ただ、この本では触れていませんが、乳製品は日本人にとって伝統食とはいえません。乳糖分解酵素を持たない日本人にとって全てがよいかどうかは、いろいろと議論があるところでは。

☆ ☆ ☆

新型コロナが 人と人とのつながりを 気付かせてくれた

新型コロナの感染拡大は、人の動きも街の様子も一変させました。

外出自粛が叫ばれ、商店は休業し、イベントは中止になりました。スーパーやコンビニのレジは透明フェンス越しです。電車に乗っても、人の少ない車両を探します。「人を見たら新型コロナ保菌者と思え」と、知らぬ間に教えられ、誰もが他人との接触を避けるようになりました。そして、このままではいけない！と誰もが感じ始めました。

もともとバブル後の日本は、他人との関りをわずらわしいものと教えられてきました。新型コロナは、ほんとうは、人は人とのつながりを求めている、と教えてくれました。

誰がつくったのかわからない商品を使うのは不安だし、安心できるものだけを口に入れたい。商品についての疑問を売る側にぶつけたい。

効率優先の大企業にとって、客は一人の消費者に過ぎません。計算された顧客対応プログラムに従って客を分類し、戦略が決められます。めんどろな客は、つくり笑顔とともに排除されます。企業買収の繰り返しでさらに巨大化していけば、人とのつながりがますますなくなっていく。

一方、小さな店には人がいます。そこには人と人とのつながりがあります。消費者と売る側とが信頼関係でしっかりつながっています。客は店主と話を交わしながら買い物をする。

効率優先の競争社会は、大規模化とともに人と人とのつながりが犠牲にされてきました。

競争社会の優等生たちは、なおもうそぶいています。「コロナ後は、テクノロジーの進歩で無人店舗や自動運転が実現する。病気の診断も介護もロボットがやる。」

彼らはいったい何を望んでいるのでしょうか。実現したら店員、運転手、医師、介護士はどこへ行くのでしょうか。誰が喜ぶのでしょうか。

これからは効率よりも人と人とのつながりが求められます。大規模店よりも小規模店です。消費者の願いをかなえるには、生産、流通、顧客サービスに至るまで、小規模であるこ

とが求められます。そこでは生産者から消費者まで人と人とのつながりが見え、そこに信頼が生まれます。

この社会にはいろんな人がいます。誰にとっても心地よい社会では、効率よりも多様性が求められます。

多様性を認める社会では、人を分断するのではなく、いろんな領域の壁をなくし、子どもも高齢者も、障がいのある人もない人も、市役所の職員も住民も、みんな混ぜこぜにして、人と人がつながりやすくしなければなりません。いろんな人がいるからいろんな意見が出、それが発展につながるのです。

居場所はみんなに必要です。それは、誰もが社会と関わるようになることです。だれもが自分の考えを述べ、他人の意見を聞く。そういう場がどこでも求められます。

意見が対立するときは、とことん話し合って合意を目指します。課題の解決のために話し合えば必ず互いの理解に到達します。経験を重ねればコミュニケーション能力も向上します。失敗したら逃げるのではなく、反省し工夫と努力で乗り越えるのです。

自分の会社しか知らない人もいろんな人とつながれば、自分の世界が広くなります。人とのつながりは自分自身を限りなく成長させます。若者に限らず高齢者も含め、人は生まれてから死ぬまで、人のかかわりの中で成長するのです。

地域が抱えるシャッター通りの問題も、駅前が駐車場だらけになる問題も、空き家の問題も、いろんな人が知恵を出し合えば、必ず解決策は出てきます。大切なことは人と人がつながることです。

手始めに、駅前ビルの空きスペースを利用して、一箱古本市をやるではありませんか。毎週土曜日など定期的にやれば、きっと人と人がつながる場になるでしょう。

さあ、小山のみなさん！

新型コロナが収束した後は、勇気を出して人と人とのつながりの場を築きましょう。そのために、いまから準備しよう。

一箱古本市実行委員募集中！
詳しくはスローテンポ書店まで。

(ブログ『うさぎもかめも』より抜粋編集)



スローテンポ書店

ベストセラーばかりがおもしろいとは限らない。

小山駅前 **ロブレ**地階

営業:火~土 13時~19時(日月祝日休み)

☆ **懇話会** 傾聴型、ディベート型を卒業し、課題解決型に挑戦中。水曜日午後5時~7時、参加無料。

☆ **実用文教室** 伝えたいことがきちんと伝わるようお手伝いします。木曜日午後3時~5時、参加費は資料代含めて、1回500円。